十神山

会報
安来節
YASU GI BUSHI

発行所　安来節保存会
〒692-8686
島根県安来市安来町878－2
TEL　0854－23－8220
FAX　0854－23－8221
http://fish.miracle.ne.jp/y-hozon
E-mail:y-hozon@tx.miracle.ne.jp

唄の部では七年ぶり　名人誕生!!

新名人に聞く

昨年十月の名人審議会を経て、この度唄の部で名人が誕生しました。
上代茂則名人（大東支部）仲前長治名人（米子中支部）のお二人です。
各名人に喜びの声と今後の抱負を伺いました。

継続は力なり

唄名人　**上代茂則**

私の祖父、父、共に民謡が好きで子供の頃からよく我流の安来節を聴いて育ちました。特に祖父は初代出雲愛之助さんの謡が大好きで蓄音器の「平円盤」（レコード）でよく聴きました。子供心にも「よい謡だなあ－」と思って聴いた記憶があります。

二十二歳の時に保存会に入会したのもあの初代愛之助さんの唄の影響が大きかったと思います。保存会に入ってからも幾つかの人生の分岐点がありましたが安来節との縁が強く続けることが出来ました。今では「継続は力なり」という諺が分るような気がします。この度私のような者に保存会最高位の資格を与えて下さいました保存会御当局に衷心より深謝致します。

ここまで私を支えて下さいました多くの会員の皆様に感謝の念で一杯であります。私にとりましては半世紀の間に数え切れない多くの方々との出会いが私の人生の最大の誇りであります。私には限られた僅かなことしか出来ませんが、先ず自分を律して安来節の発展、保存会の隆盛に尽さなければと自分に言い聞かせております。そして後世にこの「安来節」を伝えていくことが私に与えられた使命であると思っております。体力の続く限り努力する決意でおりますので変りませず御支援、御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

―プロフィール―

▼生年月日
昭和四年七月十四日
▼保存会入会年月
昭和二十六年十一月
▼保存会役職
副資格審査長
▼支部内役職
大東支部顧問
▼座右の銘
「謡は心」

一意専念

唄名人　**仲前長治**

平成十五年一月十日安来節保存会から栄ある唄名人に推挙いただきました。これ偏に会長様はじめ諸先生方の御温情又皆様方の絶大なるご支援御協力の賜と深く感銘しているところでございます。

ここで会報をお借りして一言私が保存会に入会する以前にふとした出会いで存じ上げていました先輩上代茂則名人の昇格を心からお祝申し上げ、三歩さがって先輩、師の影を踏まずの諺の如く生涯心して務めて参りたいと思っております。

安来節保存会が創立以来九十年今思いますに、初代お糸さんは申し上げるまでもありませんが、幾多先駆者の方々は並々ならぬご努力なされ組織運営なされた事と推察致しております。昨今文化という言葉をよく人々から聞かされますが、民謡の中でも安来節は全国一の大きな団体でこれまでに幾度も改正、改革をなされた誇り有る保存会であります。

今後はこの道に一身を捧げ、民謡安来節の文化向上発展に一意専念努力し自ら研鑽を重ねて参りたいと存じますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を仰ぎたく伏してお願い申し上げかせられた事をきちんとやって人生、生涯安来節で頑張りたいと思います。

―プロフィール―

▼生年月日
大正十五年九月五日
▼保存会入会年月
昭和三十六年二月
▼保存会役職
資格審査員
▼支部内役職
米子中支部顧問
▼座右の銘
「有言実行」

陶工・河井寛次郎と安来節

並河健蔵

今から四十七、八年も遡る古い話であるが、わが国が第二次大戦後の復興期を終えて、いよいよ経済成長の時代に入ろうとする昭和三十年頃のことである。

安来では、その前年に周辺の町村合併によって安来市が誕生した。また七十九歳で世を去った初代渡部お糸の功績を記念して、翌三十年からは社日公園で「お糸祭り」が賑やかに催されて、今日に至っている。

そんな年の夏のことである。安来の町の有志たちが、たまたま帰省していた陶工・河井寛次郎を安来駅前の料亭・ひさご家に招いて、安来節の元唄や鼕囃子をたっぷりと聞かせて、もてなしたことがある。

暮れなずむ夏の宵、広い座敷の障子を開け放した縁側からは、寛次郎にとって懐かしい十神山が静かな港の水面に濃い影を落としている。

旨い地酒と心尽しの郷土の味を満喫しながら、一通り安来節を聞き終わった寛次郎は、「久々に郷土の民謡を聞いて、自分の血が沸いてきた」と、いかにも熱血漢らしく感動しながら、大変な喜びようであった。そして暫く深い感慨にふけったあと、「最近の安来節は全国に広まってきたのは、大変よいことだが、寄席ずれしてしまって、唄が場当り風になっている。音律が唄の美しさから遠ざかっている」と、率直に感想をのべたあと、素朴な味わいの正調安来節のもてなしを無邪気なまでに喜んだのである。

盂蘭盆の夜の町を練り歩く月の輪神事の、間髪を入れない鼕囃子の賑やかさに思いを馳せながら郷里の人々の心意気を楽しく受けとめたのであろう。次第に町を遠のいていく笛や太鼓の調べを、久しぶりにひさご家の座敷にいて連想しながら、やがてくる秋の気配を感じとったのでもあろう。「私たちの祖先が長い世代をかけて洗練してきたものが、今もこのように美しい調べで伝承されていることを、大変有難く思う」と、寛次郎は深い感謝の心をこめて、しみじみと語ったのである。

河井寛次郎は、ふるさと安来の町の風土や人々を限りなく愛した陶芸家であるが、なかでも郷里の生活の中に息づいている安来弁に飾り気のない人々の温かい心が沁みこんでいるのを、掛け替えのないものとして受けとめているのである。安来節に寄せる彼の思いも、またこのような郷土愛に根ざすものであろう。

安来の町に住む人々が縁あって寛次郎からいただいた作品の数々は、凡そ一千点に余るといわれているが、その茶碗や壷などには、郷里を愛し続けた寛次郎の慈愛の心が溢れているといってよいのであろう。

平成元年、安来市制三十五周年を記念して設けられた名誉市民の第一号として、陶工・河井寛次郎が安来節の家元・初代渡部お糸と共に、その栄誉を受けたことに、あらためて、その〝えにし〟を思い、感銘深いものがある。

河井寛次郎（1890〜1966）

陶芸家・安来市生まれ。〝炎の詩人〟と呼ばれ、初の個展で天才出現と絶賛されたが、生活用具の美しさに惹かれ、生活に密着した「用と美」の作風へと移っていく。

柳宗悦を中心とした民芸運動の中軸として活躍し、その作品は今も多くの人々に愛されている。

素材にとらわれない創作活動を行い、主著に「火の誓ひ」がある。

私と安来節

資格審査員
三代目　安達順吉

戦後間も無く両親の勧めで三味線に取組み、安来節の世界に入りました。昭和二十四年保存会復活を機に初代遠藤お直師匠の勧めもあって二代目安達順吉師匠に師事し、紘一筋に打込み五十五年もたちました。昭和五十五年准名人、翌年より資格審査員になり一生懸命に務めてまいりました。自宅で教室を開き地域の皆様方の指導のかたわら、次の世代を担う少年部の育成に力を注ぎ大会の少年部の充実に力を入れました。安来節発祥の地にもかかわらず地元が低調なのを愁い、市民対象の教室、公民館教室に協力をしたり、安来市文化祭に素人安来節コンクールを取入れる様提案し、学校からも参加をお願いして今はそれが本部道場の活力になって居ます。安来で生まれた安来節の宝を間違い無く正しく後世に伝えるべく努力致したいと思います。どうぞよろしく御支援賜ります様お願い申し上げます。保存会の益々の発展をお祈り申し上げる次第でございます。

紘准名人
野坂守男

私の安来節との出会いは、会社に入社当時の宴会で先輩が三味線を持ってこられ、安来節をはじめ色々な民謡を伴奏され宴会が全員楽しく盛り上がりました。その時、私は三味線に大変興味を持ちました。先輩から弾いてみないかと言われ少し弾かせて貰いました。

安来節の三味線を習ってみないかと勧められました。教室を紹介して頂き、幾つかの教室で二年くらい習っていましたところ、当時の先生から家の近い所に三味線のすばらしくうまい先生が居られると紹介がありました。弟子の受け渡しもして頂き、昭和四十六年に野坂民謡教室に入門しました。師匠宅に稽古に通い習いましたが、我流的な面もあったようで、基本からやり直しでした。野坂先生と勤務先が同じで会社には民謡同好会があり習い始めより会社の諸行事でのアトラクションの舞台に一緒に出演させて頂きました。師匠の教えのひとつに三味線を弾くだけではなく、唄い易い、踊り易い、良き伴奏者である事、なかなか難しいことでした。自分のことが精一杯で唄、踊りの方の気持ちを考えて出来る様になるには、舞台経験と人一倍の稽古が一番と思いました。幸いにも師匠との二丁弾きをさせて頂いたり、大舞台にも出させて頂き、良い経験と舞台勉強になりました。

まだまだこれからも勉強です。民謡の中で特に安来節は奥が深いと思います。稽古には厳しさも必要ですが、楽しく、仲良く、和と感謝の心を大切にして、安来節の輪を広めたいと思います。

昭和57年島根国体集団演技の際の筆者

会員の声コーナー

山陽路〝歌声響く〟安来節

平成十四年十一月十七日㈰、市政百周年を迎えた呉市警固屋公民館に於いて、第十七回山陽四国地区安来節優勝大会が盛大に開催されました。出場者数も二百六十余組、延べ人数にしましても大変な出場者となり、大変盛りあがった大会となりました。この山陽四国地区安来節優勝大会は、今回で十七年目の大会となりました。

近年の大会は大変盛況でございまして一日の大会運営の規模を、大幅に超えての出場応募があり、大会運営担当者も嬉しい悲鳴をあげております。又、大会規約も原則として、（全国大会本部規約）に準ずる事と定めての運営を心がけ、技量、内容共に年々向上し、本部よりお招きした審査員の先生方のご講評も、近年は極めて良い評価をいただけるようになりました。

ふりかえって見ますと、昭和五十八～九年当時私達が全国大会に出場するため、本部地区予選会に出向いていたのを懐かしく思い出します。今日では広島地区での予選会をはじめ、山陽四国地区優勝大会のような大きな大会を盛況の内に開催出来るようになりました。

山陽四国地区安来節優勝大会

此の度、保存会改革の一貫として新しく、銭太鼓の部が創設されますし、又熟年部の動き等一層の充実が図られる事となり、とても楽しみにしているところです。

これからも山陽四国地区に一段と安来節の輪が広まりますよう、会員の皆様と共に頑張っていきたいと思いますので、より一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

広島玉実支部長
和井修一

え!!来年で一二十五年!!

昭和五十五年一月、四十名の会員で始まった赤江公民館安来節教室は、今も休まず練習を続けています。赤江には二代目安達順吉、三代目安達順吉、一宇川勤先生など安来節にかかわりのある人がたくさん居られるので公民館活動としてやってみたらどうだろうか？との事でした。唄・銭太鼓の外に女踊り、男踊りなど月二回、二時間ほどの練習をとても熱心に続けています。

赤江小学校は大阪羽曳野市の白鳥小学校と児童交流をして三十年になりますが、交流の時に自分の作った銭太鼓をプレゼントしたり演技を披露したりするので、小学四年生のころから教室に来る子供達がたくさんいます。中学に進級して来れなくなるとまた新しい子供が来るので、いつも子供達の元気な声が絶えない安来節教室です。そして交流相手の大阪の子供達の中にも赤江の友人に習って上手に銭太鼓が出来る人もたくさん居ると聞いています。

みんなで唄う安来節、千人踊りの前座、老人ホームの慰問、文化祭、敬老会などさまざまなイベントに参加させていただくことも会員の大きな励みになっています。また社会人として巣立った子供から、「故郷の安来節ができたおかげで上司に早く覚えてもらった…」とよろこびの手紙が届き、私自身もこれからの世代へ安来節を伝えることがより大切だと感じています。

私は生れた時から安来節のメロディの中で育ちました。特にお盆前、お祭りなどとてもにぎやかでした。

「むずかしいけど楽しい」「何年やっても上手にならん…」「ボケ防止にやっちょうます」「ずーと続けたいと思っています」という会員さんの声に支えられ女踊りと銭太鼓の指導、そして遅ればせながら唄の練習をがんばっているところです。

本部道場
中井博子

赤江公民館にて

はばたけ！保存会

安来節保存会
前事務局長
廣江奈智雄

安来節保存会は明治四十四年に創設され、本年で九十二年を迎え、単独の組織としては、日本一の民謡団体となりました。これは初代渡部お糸の功績とともに、今日まで営々と組織を存続させるために努力をされた先輩諸氏並びに会員の皆様のご尽力の賜物であります。

しかし、近年会員数を見ますと、昭和五十八年五千二百人をピークに徐々に減少し、現在は四千二百余名となっています。また会員の年齢層にいたしましても、高齢者が多く若年層が極端に少ない逆ピラミッド状態となっており、この原因については、音楽の多様性等による若者の民謡離れが進んでいるためといわれております。

これは、本会にとって今後の存続、組織運営に重大な懸念材料であります。このことは、安来節に限らず民謡界全体にいえることであり、若年層への対策が喫緊の課題であります。

一方、津軽三味線独特の激しい音色、西洋楽器とのセッションによる演奏スタイルにより、津軽三味線に対し、若者の関心が高まっています。その裾野も広く、約十五万人余の愛好者がいるといわれています。演奏者としては「二代目高橋竹山」「吉田兄弟」など若い方がマスコミにも大々的に取り上げられています。これは、若者の感性に訴えるものがあればこそであると思います。

そこで、安来節保存会としても若年層及び新会員の加入対策として、従来の唄、絃、鼓、踊りの四部門に新たに銭太鼓の部門を設けるため、準備が進められています。

技については、若者にもアピールすることが望ましいとして二パターンを、また審査方法等の中味については、現在、指導部内の特別委員会で検討いただいているところであります。

ただ、何故、今銭太鼓部門の創設なのか―これは何も銭太鼓だけを普及させるだけではありません。安来節の銭太鼓には伴奏が必要ですから、銭太鼓を演じれば、他の四部門にも必ず関心が広がってくるものと期待しているところです。

現在、銭太鼓の愛好者は全国で三～四万人といわれ、特に静岡県では盛んで四千人余りの愛好者がいると聞き及んでいます。しかし、そのほとんどが歌謡曲に合わせて健康体操的に演じられており、難易度の高い安来節の銭太鼓の技は、他に類を見ないすばらしいものです。今回のこの試みが成功し、全国に安来節銭太鼓が普及することを熱望しております。

また、安来節全国優勝大会の活性化、高齢者の活躍の場の提供ということで、二、三年後を目途に熟年部設置の準備も進められています。内容についてはこれからですが、概ね師範の部で七十歳以上ということで検討されているところです。

その他、平成十三年三月二十二日に、日本の民謡民舞の発展を期して、全国の主要民謡団体である㈶日本民謡協会・日本郷土民謡協会・北海道民謡連盟・全大阪みんよう協会・沖縄民謡連合会と唯一単独の民謡団体である当安来節保存会の六団体により「日本民謡民舞団体協議会」が結成されました。㈶日本民謡協会理事長の三浦朱門氏を会長に、今後協議会として様々な事業を実施していくことが確認され、当面、平成十六年四月頃、沖縄県に完成する予定の国立劇場において、六団体で公演を行うことになっております。

今後は、この団体を通じて安来節保存会をアピールしていくことが、本会の発展につながるものと考えます。

また、四年間事務局長という重責を担わせていただきましたが、私は特に組織運営について、規約の改正、役員の定年制などに取り組み、論議をしていただきました。定年制については物議をかもしましたが、芸に定年はないとはいえ、個人差もあり、年齢によって役職上の責務に耐えられない場合も生じてくるものと考えます。従って、ある程度の役職定年は必要ではないでしょうか。組織の発展は、世代交代を図り、老・壮・青のバランスのとれた形態でなければならないと考えております。今後の論議を期待しております。

終わりに、安来節保存会の発展と会員の皆様の益々のご活躍、ご健勝を祈念し、四年間の御礼とさせていただきます。有難うございました。

支部情報

ひびけ唄声世界の空へ

津山中央支部長
野坂亮若

我が津山中央支部は、岡山県北部の中核都市として発展し、その昔、森侯十八万石の城下町で春は桜五千本、日本桜名所百選にある鶴山公園をはじめ四季を通して、風光明媚な西の小京都と呼ばれる歴史の街に所在しています。

支部が産声をあげたのは、私が昭和三十七年安来節保存会に入会し、本場から遠く離れた中国山脈を越えた異国の地で、熱心に会員を募り、指導、普及発展に尽力した結果、昭和四十九年津山中央支部として発足しました。

現在会員は、社会の流れに逆らうことなく、少々高齢化の波間を遊泳していますが、第二の人生の生き甲斐に安来節を生涯教育の一端として、その習得に研鑽を積んでおります。活動の内容は、一般会員対象の支部研修会、審査会、全国大会、地域の文化活動、ボランティア慰問等積極的に行っているところです。

私事ながら、今年の唄い初め会において、私は絃の准名人に昇格いたしました。永年の努力を認めていただいた想いがして感慨もひとしおでしたが、この栄えある昇格を祝して、支部の皆さん方が盛大に祝賀会を催してくださいました。

今後とも、一同「和」を大切にして安来節を糧に練習に励み、微力ながら普及、発展に頑張りたいと思います。

平成15年1月10日㈮安来市民会館において、安来節保存会の年頭行事・唄い初め会が開催されました。

新春の澄みきった空気の中、大勢の来賓を迎え厳かな雰囲気で式典は進み、昇格披露、支部競演、特別出演と華やかな舞台が繰り広げられました。

唄い初め会

支部競演成績
（出場三十四支部）

安来市長賞　**加茂支部**
安来市議会議長賞　**松江支部**
安来市観光協会長賞　**米子中支部**
安来商工会議所会頭賞　**本部道場**
㈱山陰放送賞　**神門支部**
㈶足立美術館賞　**宮島支部**
家納喜賞　**湖陵支部**
天界酒造㈱賞　**津山中央支部**

掲示板

若い力が大活躍

去る、平成十五年二月十六日㈰松江総合福祉センターにおいて、安来節保存会松江支部主催（二代目松尾英興支部長）による発表会が開催されました。

松江支部は独自のイベントやボランティア活動などを行い、その集大成ともいえる発表会は今年で八回目となります。

現在の役員が「支部の活性化」・「民謡と触れ合うことの少ない若者達との交流」・「技術向上」などを目的に試行錯誤しながら確立したスタイルは、保存会員の減少が続く中、松江支部では特に若い方達の活躍が目を見張りました。

回を重ねる毎に、地元の方はもとより安来、米子の会員の方や一般来場者も増え、演目も安来節や山陰民謡など四十にも及び客席を楽しませ、立ち見客が出るほどの盛況でした。

第八回松江支部発表会

おーい、ニッポン　とことん島根

「エッサッサー!!　あなたと島根を縁結び」をキャッチフレーズに、六月一日（日）（十時～十九時）ＮＨＫのＢＳ２で「島根の日」が放送されます。

安来節保存会からは、『どじょうすくい隊』と称して、一宇川勤さんらが十神山をバックに事前ＰＲを行いました。

当日は、安来市内をはじめ、安来節の紹介もあります。ぜひご覧ください。

第49回お糸まつり

四月六日㈰、桜の開花が遅れていたにもかかわらず、お糸まつりの当日はさわやかに晴れ、満開の桜にめぐまれました。

県内外からの大勢の花見客の前でしめやかに焼香が行われ、続いての安来節の披露は万雷の拍手を浴びました。

安来公園

事務局からのお知らせ

〈行事予定〉

◆ 優勝大会地区予選会 ◆

6月15日㈰▶岡山地区
　　米子地区
6月22日㈰▶本部地区
　　鳥取地区
6月29日㈰▶益田地区
　　出雲地区
7月6日㈰▶石見・浜田地区
　　広島地区

◆ 全国優勝大会 ◆

8月15日㈮～17日㈰
午前9時より・安来市民体育館
15日（２級・１級・少年の部）
　特別出演・平成12・13年度師範の部優勝者
　・平成14年度師範の部入賞者
16日（初段・二段・三段・准師範）
　特別出演・大師範
　（本部・鳥取・浜田ブロック）
17日（師範・団体の部）
　特別出演・准名人・名人・家元

〈異　動〉

４月１日付で事務局の異動がありました。

新事務局長　成相　二郎　　旧事務局長　廣江奈智雄
新事務局員　岩本久美子　　旧事務局員　大櫃康之

歴代優勝者総出演

このほど、多くの会員の皆さんの要望に応えて家元と全国優勝大会師範の部歴代優勝者の唄を集めたカセットとＣＤを発売しました。

収録内容は、素唄・師範字余り選定歌詞８曲、大師範以上参考歌詞７曲、どじょうすくい（男踊り・女踊り）銭太鼓等です。出演者は次のとおり。

家元四代目 **渡部お糸**　　**野々村府美枝**（平成10･11年優勝）
中尾俊介（平成６年優勝）　**石本紀美子**（平成12年優勝）
二代目 **松尾英興**（平成7･8年優勝）　**北村八重子**（平成13年優勝）
西村サツ子（平成９年優勝）　**中村瑞子**（平成14年優勝）

熟練した名調子は、これから唄を始める人の模範歌としても最適です。ご注文・お問い合わせは事務局まで。

絶賛発売中！
心に響く安来節
～ふるさとの唄 唄い継がれる名調子～
唄い手は安来節全国優勝大会（平成６年～14年）の優勝者

ＣＤ　3,000円（税込）
カセットテープ　2,500円（税込）　送料別
― ご注文・お問い合わせ先 ―
安来節保存会事務局（安来市役所 商工観光課内）
〒692-8686　島根県安来市安来町878-2
TEL 0854-23-8220　FAX 0854-23-8221

支部役員変更

新役員の皆さんです

〈石見支部〉
支部長　松村益男　〒696-0501　島根県邑智郡羽須美村大字阿須那二六―七　☎〇八五五―八八―〇三五四
事務局長　甲村方子　〒696-0101　島根県邑智郡石見町井原二八五三　☎〇八五五―九五―一八〇二

〈江津支部〉
支部長　永見義隆　〒699-3161　島根県江津市波子町イ一二五五―二八九　☎〇八五五―五三―二六五
事務局長　安本鈴子　〒699-3162　島根県江津市敬川町三〇〇三―一　☎〇八五五―五三―四五六二
代議員　天津きく子　〒695-0002　島根県江津市浅利町三四二―五　☎〇八五五―五五―一二一五

〈瑞穂支部〉
支部長　丸田金時　〒697-0631　島根県邑智郡瑞穂町市木五五八　☎〇八五五―八五―〇一五二
事務局長　丸田幅子　〒697-0631　島根県邑智郡瑞穂町市木五五八　☎〇八五五―八五―〇一五二
代議員　田中武雄　〒696-0223　島根県邑智郡瑞穂町下亀谷八九三　☎〇八五五―八三―一〇九二

〈境港東支部〉
代議員　松本修　〒684-0072　鳥取県境港市渡町八五九　☎〇八五九―四五―四〇八五

〈米子中支部〉
事務局長　稲田眞人　〒689-3552　鳥取県西伯郡日吉津村富吉七七―一一

〈江田島能美支部〉
事務局長　松本千夜子　〒737-2121　広島県安芸郡江田島町小用三―一〇―一九　☎〇八二三―四二―〇四一六

〈広島東支部〉
事務局長　下谷勲荘　〒731-0214　広島県広島市安佐北区可部町桐原一二六〇　☎〇八二―八一八―八七一四

〈伊予道後支部〉
支部長　渡部章　〒790-0915　愛媛県松山市松末一丁目三―一三　☎〇八九―九七五―一五八一
代議員　武田厚子　〒791-8005　愛媛県松山市東長戸一丁目一―七　☎〇八九―九二二―〇〇九四

〈松山支部〉
支部長　三本善正　〒790-0963　愛媛県松山市小坂三丁目三―二八　☎〇八九―九四五―四一一〇
事務局長　大野忠弘　〒791-1101　愛媛県松山市久米窪田町一一〇四　☎〇八九―九七五―一五八〇